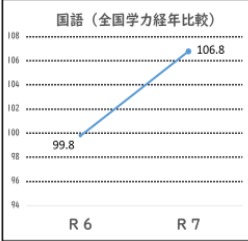
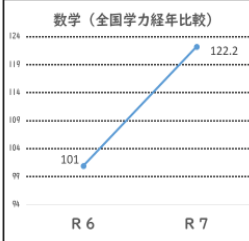


校訓	友 勤 自 愛 勉 治	 令和7年度 東中だより 第9号	発行日	令和7年10月7日
教育目標	多様化の時代を生きる 心身ともにたくましい生徒の育成		発行者	伊丹市立東中学校 校長 前田 徳三

【全国学力・学習状況調査の結果】

体育大会では、多くの保護者のみなさまにお越しいただき、子どもたちのはつらつとがんばる姿から、多くのお褒めや励ましのお言葉を頂戴しました。誠にありがとうございました。今後も職員一同、子どもたち一人ひとりの良さや無限の可能性を最大限に引き出し、毎日、笑顔で登校できる学校を目指して取り組んでまいります。

さて、4月14日に実施しました全国学力・学習状況調査は、以下の結果でしたのでお知らせいたします。

	本 校	全 国		令和7年度	令和6年度	国語（全国学力経年比較）	数学（全国学力経年比較）
国 語	58	54.3	国 語	106.8	99.8		
数 学	59	48.3	数 学	122.2	101.0		

<全国を100としたときの本校の割合>

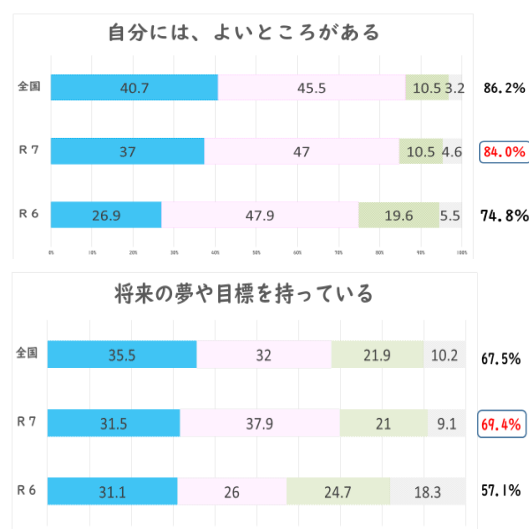
<全国を100としたときの本校の割合>

国語、数学ともに、全国平均や昨年度の本校の平均よりも大きく上回ることができました。また、国語は最も平均正答率の高かった秋田県、東京都、石川県の57点を1点上回り、数学は最も平均正答率の高かった石川県の54点を5点も上回ることができました。また、理科はIRT方式で実施し、本校のIRTスコアは509点で、全国平均の503点を上回りました。大変嬉しいことです。ただ、平均正答率を上げることを目標にしているのではなく、将来を担う子どもたちが将来の目標を掲げ、主体的に考え行動し、そのための課題を解決すると同時に、論理的・批判的に思考できる力も兼ね備え、豊かな人生を切り開いていけるように成長してほしいと考えています。

また、平均正答率と質問紙調査の結果と併せて、どのような課題や強みがあるのか、職員会議や学校運営協議会で共有し、その課題に対してどのように改善を行っていくことが必要なのかをしっかりと把握、分析を行い、授業改善に向けて取り組んでいきたいとも考えています。

学習状況調査においては、左から、肯定的な意見である（している、どちらかといえばしている）、否定的な意見である（あまりしていない、全くしていない）の回答率です。また、全国は全国平均で、R7は今年度の本校の平均、R6は昨年度の本校の平均です。

自己肯定感を見る「自分には、よいところある」は、肯定的な意見が昨年度から9.2ポイントも上昇しましたが、全国平均（以下：全国）を少し下回りました。また「将来の夢や目標を持っている」は、肯定的な意見が昨年度から12.3ポイント上昇し、全国を1.9ポイント上回りました。



「人の役に立つ人間になりたい」は、肯定的な意見が昨年度から2.3ポイント上昇し、全国を1.1ポイント上回りました。「授業でのICT機器の使用頻度」は、右から、ほぼ毎日、週3回以上、週1回、月1回以上です。「ほぼ毎日使用している」が、昨年度から35.2ポイントも上昇し、全国を52.3ポイントも上回り、本校の授業でのICT使用率が高いことがわかりました。

その他、多くの成果や、逆に取り組まなければいけない課題等もわかりました。ただ、多くの項目から、子どもたちの非認知能力や主体性が少しずつ高まってきていることが明らかになったことは大変嬉しいことです。

全国学力・学習状況調査だけがすべてではありませんが、客観的な指標として、今後の教育活動において大いに参考としてまいります。そして、取り組むべき研究内容などに反映させ、見直して改善を図っていきたいと考えています。

【人間性を高めよう】

先行き不透明な時代において、子どもたちの知力と人間性の成長を願い、常に弛まず教育活動を行っていきたいと考えています。社会においては、社会的責任を果たすために知力だけでなく、人間力を磨いていく必要があることは言うまでもありません。

多くの人たちが、メジャーリーガーの大谷翔平選手に惹かれるのは、卓越した野球能力とともにその人間性にもあると思います。学習指導要領には、これまでの知識を編重する教育風土からの転換を図るとして、学びに向かう力や人間性などの資質能力を育むことを大切にしています。

これからの時代、記憶力、思考力、判断力、推理力などの認知能力とともに、「目標に向かって取り組む力」「意欲」「創造力」「コミュニケーション力」などの非認知能力の両方を高めていく必要があります。非認知能力が低いと、自己肯定感を高めることもできません。予測していない急激な変化に対応できる能力を高めるためには、非認知能力が重要であり、認知能力とともに身につけていけば、学力もウェルビーイング（身も心も満たされた状態）も高まります。どんなに高度な技術を身につけても、どんなに立派な知識を身につけても、それは所詮道具に過ぎません。人間性を高めることは大切なことです。

子どもたちの人間性を高めるためには、私たち大人が教え込むだけでなく、自分の内側から湧き上がる内発的動機づけに基づく自己肯定感の高まりが不可欠です。ほめられ、自分が大切であると思われている実感があれば、子どもたちの人間性は高まり、学習にも意欲的になり、他者を思いやることもできます。また、多くの体験を積む中、自分自身の見聞を広げるだけでなく、人間性に幅と奥行きが生まれ、自分自身の魅力を一層増すことにもつながります。

私自身、これからも子どもたちの目の輝きやまっすぐな思いを真正面から受け止められるよう人間性を高め、教師としての資質を磨いていこうと心に誓います。

<京都のお寺に掲げられている扁額（へんがく）の言葉>

何を話せるかが知性、何を言わないかが品性、どのように伝えるかが人間性

